私のお気に入り

小樽市立西陵中学校　増村つむぎ　２年

　小さい頃、私は歌わない子だった。母が心配するくらいに。そんな私が初めてハマった曲は、三歳の時に観た劇団四季のライオンキングのミュージックナンバーだ。それが私の推し、劇団四季との出会いである。私は、毎日ヤングシンバの真似をし、歌って踊った。歌うことが楽しくて楽しくて。

　だが、三歳の時の経験が劇団四季を推す最大の理由ではない。私には、それ以上に想いが深まった出来事がある。自分自身が劇団四季の舞台に立ったことだ。

　この経験は、私の人生を大きく変えた。子役担当の方に言われた「殻を破れ」「必死に」「毎回、新鮮な気持ちで」という言葉。特に「殻を破れ」。この言葉は、今の私を作り上げている。以前は、恥ずかしくて、思いっきり笑うこともできないし、自分の意見を言うこともできなかった。けれど、今では、男子の前でも大きな口を開けて笑えるし、嫌なことは嫌だとはっきり言えるようになった。

　私の生き方に影響を与えてくれた劇団四季のオーディションを受けようと思ったきっかけは、ある人との出会いだ。元劇団四季の俳優で、現在はお寺の住職をしながら、地域の子どもたちに本物のミュージカルに触れる機会を与えてくれている岩本さんだ。岩本さん以外にも、劇団四季を辞めた後、子どもたちに歌やダンスを教えている人がたくさんいる。また、劇団四季では、全国の小学生を無料で招待する、こころの劇場という活動を行っている。生命の大切さ、人を思いやる心などを舞台を通して語りかけ、感動を届ける取り組みだ。劇団四季の方々は、演技や歌が上手なだけではない。人としても素晴らしいのだ。

　私が劇団四季を推す理由は他にもたくさんある。圧巻の歌声、思わず口ずさんでしまう名曲の数々、目を奪われるダンス、いくつもの役を演じるアンサンブル、そして、母音法などの練習を欠かさず行っているからこそ成り立つ、声の聞きやすさだ。セリフや歌が、はっきりと聞こえるので、物語に引き込まれていく。さらに、セリフがない時でさえも、俳優の表情や間から心の声が聞こえてくる。この心の声があるからこそ、想いが胸に深くささってくるのだ。

　今年の夏、東京に行き、貯めていたお小遣いで劇団四季の舞台をいくつか観てきた。すごく幸せな時間だった。観終わった瞬間に、もう一度観たい、何度でも観たいと思うくらい、私は劇団四季に夢中なのだ。